

海をめざした恐竜時代の鳥類： 最古の海鳥の謎をもとめて！



地球・環境評価研究部 地球科学研究グループ

田中 公教

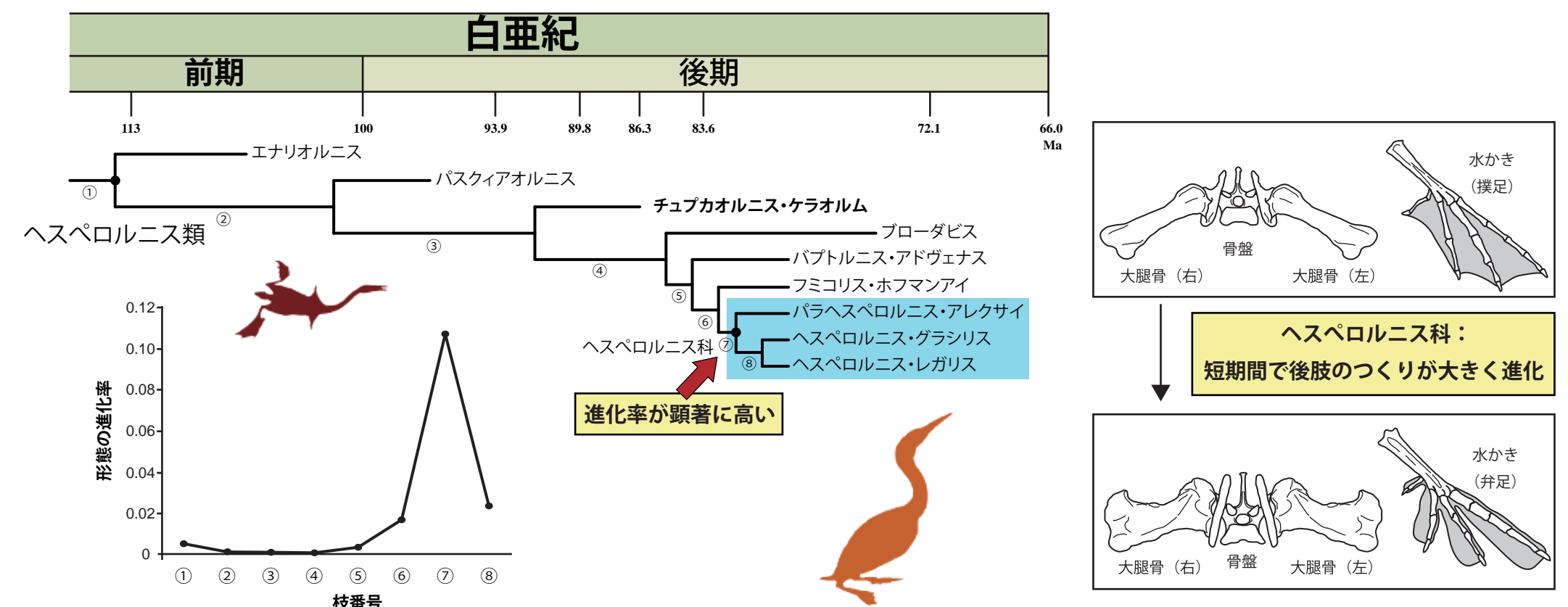
陸生の動物が、長い時間をかけて水中での生活スタイルを獲得する進化を、水生適応といいます。私は、最古の海鳥「ヘスペロルニス類」を題材に、恐竜時代の鳥類はいかにして海へ進出したのか、その進化の道のりを調べています。

私たちのこれまでの研究によって、ヘスペロルニス類の新たな系統関係や、派生的なヘスペロルニス科の仲間は、泳ぎを極めるためにからだのつくりを短期間で大幅に変化させ、海洋環境に適応放散したことが明らかとなりました。



© Masato Hattori

ヘスペロルニス類は白亜紀中頃から末期（約1億～6千6百万年前）の北半球に広く分布していました。また、現在の鳥類とは異なり、歯のあるアゴを持っていました。



鳥類の生命史上はじめて海に進出したヘスペロルニス類は、強力な後肢と水かきを持っていましたが、翼は極端に小さくなり、飛ぶ力は完全に失われていました。なかには、人間の背丈ほどにまで大型化した仲間もいます。今後、私たちの調査によって新たに発掘された化石をもとに、彼らの”無飛翔化”や”大型化”の謎を解明してゆきます。